

大牟田市立天の原小学校

1 本校のESDの特徴

本校は、大牟田市の南東部の高台に位置している。校区には、諏訪川の支流である野間川が流れ、学校南東部には竹林が茂っており、自然環境が豊かである。

本校は、海洋教育推進校となっており、有明海沿岸部に位置するみなと小学校や天領小学校、諏訪川沿いに位置する駿馬小学校と連携しながら、海洋に関する課題解決を図る学習を展開している。特に、本校は、森の視点から課題追究することにより、「森・川・海」のつながりを通じた4校協働の海洋教育へと発展できるよう実践を進めている。

2 ユネスコスクールとしての活動・全体計画

関連するSDGsの目標13・14・15を中心に、上記4校と連携・協働し、総合的な学習の時間及び社会科を重点として海洋教育を推進している。総合的な学習の時間(3～6年)において、年間25時間を「海の時間」と設定し、海洋教育の四つの視点「海に親しむ・海を知る・海を守る・海を活用する」を系統的に仕組んだ活動計画を作成し、実施している。

学年	視点及び単元名	活動内容
3年	海に親しむ 「海や川の生き物のために」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有明海の干潟や諏訪川の支流である野間川に生息する生き物の調査・観察を通して、体験的に海や川の自然に親しむ。 ○ 学んだことをまとめ、隣接学校や校内、地域へ発信することを通して、海や川の生物多様性について考える。
4年	海を知る・守る 「海や川の環境のために」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 有明海に流れる諏訪川の支流(野間川)周辺のゴミの様子や有明海のゴミについて調べ、調査結果を他の学校と交流することを通して、ゴミや生活排水から海や川を守ろうとする。 ○ 学んだことをまとめ、他の学校や校内、地域へ発信することを通して、川や海の環境保全について考える。
5年	海を守る・活用する 「森と私たちのために」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 川や海とのつながりが深い森林の役割について調べ、農の方やのり漁業の方の話を聞いたり、野間川の水質調査をしたりしたことを通して、山や川・海からの恩恵を活用しながらもそれらを守る取組のよさを実感し、広めようとする。 ○ 他の学校や校内、地域へ発信することを通して、森・川・海の環境のつながりと環境保全のためにできることについて考える。
6年	海を守る・活用する 「自然と私たちの未来のために」	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前学年までに学習してきた海洋教育の内容を総合し、「山や海などの自然の利用」「人と自然との共生」について各関係機関の協力を得ながら調べる。 ○ 調査結果を他の学校と交流したり、他の学校や校内、地域へ発信したりすることを通して、持続可能な地域づくりのために私たちにできることについて考える。

表1 天の原小学校 全体計画

3 特徴的な活動事例の紹介



(1) 3年生：野間川の生き物調査

自分たちの地域に流れる「野間川」にはどんな生き物が生息しているかという課題設定を行い、野間川の生き物を調べた。採取した生き物を調べる中で、ホテルなどの水のきれいな川にしか生息しない生き物が多く生息していることが分かり、野間川を大切に守っていきたいという思いをもつことができた。



【3年生：野間川調査】

(2) 4年生：有明海のゴミ調査

社会科や総合的な学習の時間で、ゴミ問題について学習を重ねてきた子供たちは、諏訪川上流に位置する支流野間川にどのようなゴミがあるかという課題を設定し、ゴミ調査を行った。そして、諏訪川が有明海に流れていくことから、有明海についても調査を行った。有明海にたどりついたゴミは、自分たちの地域の川を流れてたどり着くため、子供たちはゴミを川に捨けないなど、日頃からできることを考えることができた。



【4年生：有明海調査】

(3) 5年生：森・川・海のつながりに関する調査

三池港クルージングを通して有明海の良さに触れたことから、有明海と地域を流れる野間川とのつながりを知り、野間川について調査するという課題を設定した。そして、野間川の水質がきれいであるのに対し、下流に行くほど汚れており、そのまま海に流れていくこと、川の汚れは生活排水であることがわかった。さらに「山・川・海のつながり」についてGTの柿川先生から話を聞き、それらの恩恵を活用しながら未来まで自然を守り続けていくためにできることは何かを考え、発信できた。



【5年生：野間川水質調査】

(4) 6年生：竹害に関する調査

大牟田市環境保全課の方のお話から、大牟田市の山の環境問題の一つである竹害について課題を設定した。校区の調査から、竹林が多い校区という特徴に気づき、竹害への課題意識をもつことができた。さらに、竹害の現状と課題について調べたり、竹の伐採、細工等の体験を通したりして、竹の活用について考え、人と自然、人と人との共生について考えることができた。



【6年生：校区の竹林調査】

4 本年度の成果と課題

○成果

- ・様々なGTとのかかわりと、体験活動が位置づけられたことによる、地域への愛着の視点
- ・4校での合同授業による視野の広がり、課題解決した内容を含めた発信の場の設定

○課題

- ・子供たちが主体的に問題発見、課題解決に取り組むような課題設定の工夫
- ・学びが連続・発展するような体験活動の位置付け